

平成30年度 第2回豊島区災害医療検討会議

平成31年3月25日（月）

午後7時30分

池袋保健所3階講堂

【次第】

1 会長あいさつ

2 議事

(1) 30年度災害医療対策訓練実施報告

- ・豊島区災害医療対策訓練
- ・東京都区西北部医療圏災害医療図上訓練

(2) 緊急医療救護所について

(3) IP無線機の導入について

(4) 課題及び対応状況並びに平成31年度計画について

3 その他

【資料】

- 資料1 豊島区災害医療検討会議委員名簿
- 資料2 平成30年度豊島区災害医療対策訓練実施報告
- 資料3 東京都区西北部医療圏災害医療図上訓練実施報告
- 資料4 緊急医療救護所一覧
- 資料5 IP無線機の導入について
- 資料6 課題及び対応状況並びに平成31年度計画（案）

豊島区災害医療検討会議委員名簿

【委員】

役職	所 属	委 員
会 長	区災害医療コーディネーター (大同病院院長)	島 本 悦 次
副会長	区災害医療コーディネーター (池袋病院院長)	川 内 章 裕
委員	帝京大学医学部附属病院院長	坂 本 哲 也
〃	区災害医療コーディネーター (要町病院副院長)	吉 澤 明 孝
〃	都立大塚病院副院長	澁 谷 和 彦
〃	山口医院院長	田 口 享 子
〃	長汐病院事務部長	留 目 忍
〃	原整形外科病院院長	原 え り
〃	としま昭和病院院長	大 部 雅 英
〃	豊島区医師会副会長	関 口 更 一
〃	豊島区医師会理事	上川床 裕
〃	豊島区医師会 産婦人科医会会長	小 川 隆 吉
〃	豊島区歯科医師会会長	高草木 章
〃	豊島区薬剤師会常務理事	田 崎 崇
〃	東京都柔道整復師会豊島支部長	無 藤 龍 雄
〃	南池袋訪問看護ステーション管理者	厚 美 道 子
〃	豊島区在宅医療連携推進会議 リハビリテーション部会長	新井田 龍 一
〃	東京都助産師会 豊島地区分会	星 野 雄 子
〃	豊島区鍼灸師会 会長	土 肥 康 子
〃	区災害医療コーディネーター (池袋保健所長)	佐 藤 壽志子

【その他行政関係者】

所 属	氏 名
池袋警察署警備課長	喜々津 和 義
巣鴨警察署警備課長	清 水 敏 行
目白警察署警備課長	吉 本 康 久
豊島消防署警防課長	内 海 基 博
池袋消防署警防課長	安 藤 正 樹
保健福祉部長	常 松 洋 介

所 属	氏 名
健康担当部長	榎 原 猛
防災危機管理課長	廣 瀬 陽 一
池袋保健所生活衛生課長	栗 原 せい子
池袋保健所健康推進課長	関 な お み
長崎健康相談所長	荒 井 和 子

平成 30 年度 豊島区災害医療対策訓練実施報告

1. トリアージ訓練

【実施日時】 30年7月7日（土）14:00～16:00

【実施場所】 都立大塚病院 5F大講堂

【訓練内容】 帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科 小菅宇之先生による講義、異なる職種3名一組でトリアージ実技訓練

【参加者数】 62名（医師11名、歯科医師6名、薬剤師5名、柔道整復師3名、鍼灸師2名、歯科衛生士1名、看護師13名、保健師4名、その他医療職等3名、事務14名）

【講評・課題】・現場では、多職種、初対面の者同士が瞬時にチームを組んでトリアージ等の救護活動を行うことになるため、多職種連携によるトリアージ訓練は重要である。
・瞬時に適正な判断を行うために、継続的に研修を実施することが重要。



2. 図上訓練

【実施日時】 30年9月15日（土）14:00～16:00

【実施場所】 豊島区医師会館4F～6F会議室

【訓練内容】 ①帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科 小菅宇之先生によるご講義
②区災害対策本部、医療対策本部、災害拠点病院、災害拠点連携病院、緊急医療救護所、医療救護所間の情報伝達、記録の作成に重点を置いた図上訓練

【参加者数】 71名（医師18名、歯科医師2名、薬剤師5名、柔道整復師5名、鍼灸師1名、看護師12名、保健師5名、事務等23名）

【講評・課題】・クロノロの書き方の訓練が必要。見本や記録が必要な項目を事前に記載したフォーマットがあると良い。

- ・災害時には瞬時に役割分担をしっかりと決めることが重要。
- ・他部署からの要請に対し、どこまで対応できているのか、進捗が一目でわかるように記録をとる必要がある。



3. 緊急医療救護所立ち上げ訓練

【実施日時】 11月10日（土）14：00～16:30

【実施場所】 巢鴨公園（一心病院前緊急医療救護所）

【訓練内容】 ①通信訓練 ②テント設営場所、資器材、医薬品備蓄場所の確認・運搬
 ③トリアージシミュレーション
 ④災害拠点連携病院（一心病院）への負傷者搬送シミュレーション
 ⑤帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科 小菅宇之先生による講義

【参加者数】 61名（医師8名、歯科医師6名、薬剤師4名、看護師23名、柔道整復師6名、
 歯科衛生士1名、保健師3名、事務その他10名）

【講評・課題】 ・自分が属する組織でしか通用しない「方言」に注意する。

- ・効率的な情報収集のために、クローズド・クエスチョン、特化した質問をする必要がある。
- ・依頼や指示は特定の相手に向けて行う。
- ・担架に落下防止用のベルトを付ける必要がある。
- ・テントをスムーズに立ち上げるには、リーダーの指示のもと最小限の人数で行うべき。



東京都区西北部医療圏災害医療図上訓練実施報告

【実施日時】平成30年12月19日（水）事前説明、フェーズ0対応訓練
平成31年1月20日（日）フェーズ1～2対応訓練

【会場】帝京大学 大学棟本館3階

【参加機関】豊島区、板橋区、北区、練馬区、東京都保健福祉局、区西北部保健医療圏の
災害拠点病院、三師会、連携病院、支援病院

【豊島区参加者】24名（区災害医療コーディネーター、医師会、歯科医師会、薬剤師会、
要町病院、区職員）

【訓練内容】被害状況の集約、救護所・避難所に関する検討、避難所等の状況アセスメント、
負傷者搬送の検討、医療対策本部会議シミュレーション等

【感想・課題】

- ・医療対策本部の運営方法に関するマニュアルを整備する必要がある。
- ・初期段階でリーダーを定め、その役割を明確にする必要がある。
- ・他区との連携をどのように行うかが課題である。
- ・避難所間、緊急医療救護所間の連携も課題である。
- ・緊急医療救護所に参集する人のリストを事前に用意しておくべき。
- ・72時間以降は、医療対策本部の会議に、災害拠点病院、災害拠点連携病院、災害医療支援病院にも参加して頂く必要がある。



緊急医療救護所一覧

【平成 31 年 3 月 25 日現在】

災害拠点病院 災害拠点連携病院等	医療資器材・医薬品備蓄場所	
	医療資器材	医薬品
池袋病院	東池袋公園	池袋病院内
一心病院	東部区民事務所	一心病院内
大同病院	大同病院敷地内倉庫 区立千登世橋中学校	大同病院内
要町病院	要町病院敷地内倉庫	要町病院内
都立大塚病院	都立大塚病院敷地内倉庫	
長汐病院	長汐病院検診センター	
としま昭和病院	としま昭和病院敷地内 倉庫	としま昭和病院内
原整形外科病院	区立西池袋中学校	原整形外科病院内
平塚胃腸病院	西池袋公園	豊島区医師会館内
山口医院	調整中	山口医院内
高田馬場病院	高田第三公園 (予定)	調整中


 新設予定

【緊急医療救護所視察ツアー実施】

◎ 日 時 平成 31 年 5 月 26 日 (日) 9:00～17:45 (予定)

◎ 集合場所 豊島区医師会館

※医師会館から、マイクロバス (28 人乗り) で順次緊急医療救護所予定地等を視察する。(途中徒歩あり)

IP無線機の導入について

1 豊島区の移動系防災行政無線の現状

本区の防災行政無線（半固定型, 携帯型）は平成 23 年度にデジタル化へ移行し、約 200 箇所、275 台導入している。しかしながら通信状況については、高層ビルの建設や庁舎移転等の影響により、極めて不安定な状況であり、災害時適切に対応することは難しい状況である。

2 IP無線機の特徴

携帯電話回線網を利用し、戸別通話携帯圏内なら全国どこでも通話が可能。パケット通信により通信を行うため、災害時に規制されづらい。

※音声通話は災害時の規制対象（一般の携帯電話通話）

無線機（防災行政無線）との比較

メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の通話圏内なら、日本全国、遠く離れた場所間でも通信が可能（福岡県、島根県、倉敷市と通信を行ったがいずれも音声良好であった） ・無線機が苦手とする、地下街、建物内、高低差のある場所間の通信が可能 ・1対複数のグループ通話が可能 ・第二級陸上特殊無線技士の免許申請が不要 ・設置・移設等にあたる工事が不要 ・小型で軽量且つ操作が容易
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・輻輳により回線が混雑する場合の通信確度が不明確（大阪北部地震、熊本地震の際には通信状況に影響はなかったが、北海道地震の際には JAL が導入している 1300 台の内、docomo 回線が約 3 時間輻輳により通信状況が不安定になった。AU 回線については影響がなかった） ・通信料がかかる（月 2,000 円前後／台） <p>※輻輳・通信要求過多により、通信が成立しにくくなる現象</p>

3 導入事例の一例

（1）都内自治体の状況～概ね、防災・危機管理担当部門、消防等において活用

・東京都	・北区	・杉並区	・千代田区
・江東区	・葛飾区	・渋谷区	・墨田区
・国分寺市	・町田市	・新座市	・八王子市

（2）事業所等

・日本航空（空港業務におけるスタッフ間連絡用）
・JR東日本（駅構内及び駅間における連絡用）
・東京都庁（都庁内警備員連絡用）、仙台市（消防局）、総務省関東総合通信局 等

4 設置場所について

現状の移動系防災行政無線の設置場所を踏まえ、以下の場所に設置する。

池袋保健所
長崎健康相談所
山口病院
一心病院
都立大塚病院
副都心病院
豊島中央病院
岡本病院
池袋病院
平塚胃腸病院
原整形外科病院
長汐病院
高田馬場病院
大同病院
としま昭和病院
要町病院
豊島区医師会
豊島区歯科医師会
豊島区薬剤師会
東京都柔道接骨師会豊島支部

※池袋保健所には3台、その他各施設には1台ずつ設置

5 配布方法について

防災危機管理課職員が5月～8月を目途に各施設に配布。

詳細の使用方法等マニュアルについて現地で実施。

現状の移動系防災行政無線については、2020年（平成32年）に撤去予定。

課題及び対応状況並びに平成 31 年度計画（案）

課 題	30 年度実施状況	31 年度課題・計画
○訓練の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7 月 7 日(土) トリアージ訓練 ○ 9 月 15 日(土) 凶上訓練実施 ○11 月 10 日(土) 緊急医療救護所立ち上げ訓練実施 (一心病院前緊急医療救護所) ○12 月 19 日(水)区西北部二次保健医療圏凶上訓練 (フェーズ 0 対応訓練) ○ 1 月 20 日(日)区西北部二次保健医療圏凶上訓練 (フェーズ 1～2 対応訓練) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5 月 26 日(日) 緊急医療救護所視察 (緊急医療救護所開設予定地 11 か所) ○ 7 月 トリアージ訓練実施 ○11 月 緊急医療救護所立ち上げ訓練 ○12 月 凶上訓練 ○ 6 月～2 月 通信訓練 広域災害救急情報システム (EMIS)、区総合防災システム、IP 無線機 ○ 1 月～3 月 32 年度訓練実施計画策定
○妊産婦周産期医療体制の構築	○東京都災害時周産期医療体制検討部会参加	○東京都保健福祉局が策定を進めているガイドラインの公表を待つて、医師会産婦人科医会、助産師会と区の体制整備について協議を進める。
○緊急医療救護所、医療救護所の人員体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○看護師登録 (3/1 現在登録者 39 名) ○医療従事者登録 (3/1 現在登録者医師 40 名、歯科医師 32 名、薬剤師 26 名) 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護師登録：登録者増に向けて、広報、ホームページで周知する。 ○関係機関に周知を依頼する。
○緊急医療救護所、医療救護所活動マニュアルの整備	○マニュアル、アクションカード記載内容更新 (緊急医療救護所開設場所、資器材等備蓄場所修正)	○訓練結果を反映させ、より具体的なマニュアルに更新するとともに、三師会等関係機関との連携についても整備する。
○緊急医療救護所の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○都立大塚病院に医薬品、資器材備蓄倉庫設置 ○高田第三公園に資器材倉庫設置 (予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練実施により、備蓄が必要と判断した医療資器材の購入予算を確保する。 ○2020 年 7 月で終了する PHS(イエデンワ)に替わる通信機器を導入する。
○在宅人工呼吸器使用者の個別支援計画作成の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問看護ステーションに個別支援計画作成を委託。 ○手引きを関係機関へ配布し、区ホームページへ掲載。 ・6 月 20 日 訪問看護ステーション連絡会にて説明 ・2 月 6 日 高齢者総合相談センター看護師会にて情報共有 ・3/14 現在 計画策定 18 名 (新規 4 名含む)。 	○在宅人工呼吸器使用者災害時個別支援計画作成を推進する。